

## 隨筆

## 既製品

植松時雄

既製品と言えば、まずピンと来るのが、洋服屋の店先  
にぶら下つている洋服である。これ位以前は既製の洋服  
は蔑まれていた。最近では、既製の洋服も、形も品も良  
く、且つ大きにも色々あつて贅沢を言わなければ、使用  
に差支えないようになつた。尤もこれは、以前は洋服と  
言へば、上衣は小さく、ズボンも細く、ピツタリ体に合  
つたものを良いとしていたのであるが、最近では洋服は  
寛りしたものを着るようになった——この方が実用的で  
ある——ので、多少のことは融通がつくからであるかも知  
れない。

洋服以外の衣類は（和服は除く）注文で作るものは殆  
どない。肌着然り、靴下然りである。併し乍らこの方  
は、大きに種類が少いので、私はいつも困つている。こ  
れらについても是非共も少し使用者の便を考えて貰いた  
いと思つている。私と同じように困つている方が相当あ  
るであろう。

翻つて他の工業製品を見ると、特殊なものを除いて、  
殆んどが既製品である。即ち見込生産をして、いつでも  
使用できるように店頭並べてある、これも勝手なもの  
を作つたのでは、使うのに不便であるから、規格を定め  
てそれによつている。併し乍ら、この規格もいつまでも  
後生大事に守つていたのでは、少しも進歩がない。世  
の中が進んでいるのであるから、それに応じて使用者の便  
とその性能の向上のために研究と改良が行われ、それにつ  
れて、一度定めた規格でも修正して行くべきであらう。  
それには売つてしまつたら、後は野となれ山とな  
れ、で放つて置かないで、サービス係とかサービスステ  
ーションを作つて、売つた製品の保守に万全を期し、使  
用者の意見と、故障のあるものはその原因を確かめて、  
改良に資すべきである。このことなくしての製品の改良  
は正鵠を失したものとなるであろう。

色々の工業製品が外国から入つて来るが、我が国の製  
品はいつもその後を追つているようである。これも製作  
者が真に使用者の側に立つて見れば当然判るようなこと  
が多い。例えば、最近売り出されている木ねじの頭の十  
の溝であるが、従来の一の溝のあるものでは、少し力  
を入れてねじ込むと頭が半分欠けて使用に堪えなかつた  
が、十の溝のあるものではその欠点が除かれて便利で  
ある。

日用品を始めとして工業製品の大部分が既製品である  
ことから考へて、皆の僅かの努力で立派な品物が作られ  
得ることを強調し、それによつて我が国の製品が広く海  
外へ進出することを望んでやまない。

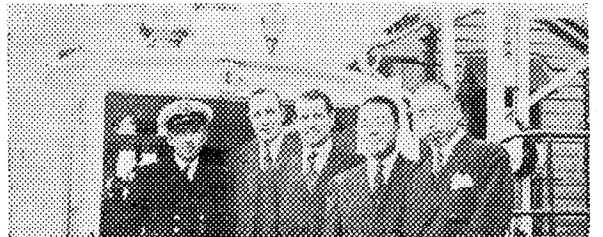
（筆者は工学部教授、本誌編集委員）

## エレクトロニツクスの重要性

林 竜 雄

世界最大の電機会社の General Electric 会社を訪問し  
た時に同社の幹部は GE が最も重視して居る近代科学  
の重要問題は次の四つであると教えてくれた。即ち

- 1) 原子力応用 (Atomic power)
- 2) 航空工業 (Aviation)
- 3) エレクトロニツクス (Electronics)
- 4) 材料の革命 (Revolution of Materials)



写真はロンドン、テムズ河における Decca  
のレーダー及航海路指示器の実演—上の方は  
レーダー右端が筆者

であるが残念ながらこの四つとも我国の最もおくれて居  
るものである。エレクトロニツクには適当な日本語が  
ないのが残念であるがおよそ電子管を用いた電波、音波  
其他のあらゆる装置及技術の総称である。テレビ、ラジ  
オ、レーダー等すべてこの内に含まれる。最近のジェツ  
ト機の価格の殆ど以上がエレクトロニツクスに使用され  
ると言う事をきくと如何に大きな国防工業であるかと言  
う事がわかるであろう。最近発達したトランジスターの  
発表があつたとき米国防軍研究所長が学会にあらわれて  
諸君の研究の結果によつてアメリカの軍事予算が削減さ  
れるであろうと言つた事は国防産業に於て如何にエレク  
トロニツクスが大きな役割をしめて居るかと言う事を  
物語つて居る。

昨年国際物理学会に米海軍省の Chief Scientist の  
Dr. Piore が来日した。私はワシントンで同博士の知遇  
を得たが、同氏は私に日本の技術者との会談の機会を作  
る事を依頼してきたので東京にて各方向の権威者に紹介  
した。

同博士は RCA の Dr. Zworykin や CBS の Dr. Gold-

## 生産と技術

mark のところでカラーテレビを研究して居たエレクトロニクス技術者であつたがなかなかのつかりして居るので一同感心した。ある人が、あなたは海軍のエレクトロニクスの研究を指導して居るのかときいたところ、"I should cover all the naval research." といつて全海軍の研究を指導して居るのだとみえをきつた。同氏の説明によると、全海軍の仕事の中でエレクトロニクスの進歩が一番早い。一番進歩の早い技術関係のものが指導的立場に立つのが最も合理的であると思うといひ、海軍ならば造船の人が主力となる様に思うのが造船の技術は三十年前と大差がないと説明して居た。この言をもつてしても米国に於て如何にエレクトロニクスが重要性をもつて居るかわかる。

私が驚いたのは I.R.E. (Institute of Radio Engineers.) の会場でエレクトロニクスの求人広告が出ておりカラーテレビとか、トランジスターとかチャーミングな題目がかかづあつた事である。エレクトロニクス、エンジニアは極度に不足し、大学の最終学年になると GE とか RCA 等の一流会社からとり合いになる様子

であつた。と逆の現象であつた。

以上私は主として米国を例にとつて述べたが、ヨーロッパ諸国に於てもエレクトロニクスの重要性がますますつよくなりつゝある事は勿論である。この世界的風潮はおくればせながら我国にも入りつゝある。エレクトロニクス産業は材料の良否や機械の精度に非常に左右されそれ等基礎産業の上に立つて居るから、我国の様に基礎のよわいところは非常につらい立場である。しかし日本の様に資源にめぐまれない国ではエレクトロニクス産業の様な智脳と小さい技術を要する産業をそだて、将来輸出産業に切りかへて行かねば、国家としての将来性が明るくはならないであらう。

我々は関西地区にテレビジョン放送局を創立しようとして努力して居り又、FM (周波数変調) による起短波放送も企劃し政府当局に申請して居る。将来我々が実現させようとする天然色テレビはエレクトロニクスの最高の技術の集積であり、皆様方の御協力によつて是非これを実現させたいと思つて居る。

(筆者は関西テレビ放送技術委員長、理学博士)

## 話 題

# 多奈川火力発電所に就いて

関西電力 K K 金 森 達 雄  
火 力 部

## I 緒 言

当社は当面の電力不足を一日でも早く脱脚するため、水力の開発と併行してこれの補給用として新鋭の火力発電所を設置する計画を進めていましたが、此の度 110 億円の巨費を投じて大阪府泉南郡多奈川町に第 1 期工事最大出力 150,000KW の最新式高能率火力発電所の建設工事を開始しました。(第 1 図参照)

## II 計画概要

### (1) 設計、建設及び運転

技術的な設計、建設工事の監督並びに運転の指導はアメリカのコンサルディング・エンジニア及びメーカーに依頼します。

### (2) 製 作

外資導入並びに外国技術導入の見地から主要設備は勿論、附属設備も出来る限り広い範囲に於いてアメリカ製のものを使用します。

### (3) 設備仕様の概要

蒸気条件 1450 psig (102 kg/cm<sup>2</sup>)、1,000° F (538°C)

